

I 総論

4 環境マネジメントへの取組状況

環境・安全推進センター及び各室の主な業務 (5頁)

(2025年5月1日現在)

センターの所掌業務	各室の主な業務		
<ul style="list-style-type: none"> 環境マネジメントに関すること 安全衛生・健康管理に関すること 毒劇物の管理に関すること 化学物質等の管理に関すること 危険物の管理に関すること 労働災害に関すること 放射線障害防止に関すること 核燃料物質の管理に関すること 	環境マネジメント推進室 (設備環境課)	<ul style="list-style-type: none"> 環境保全及び安全衛生管理上の作業環境に関する企画、調査及び連絡調整に関すること 環境保全及び労働安全衛生上の作業環境に係る法にもとづく届出に関すること その他設備工事の実施及び管理、環境保全又は安全衛生管理上の作業環境に関すること 	
	労働安全衛生室	<ul style="list-style-type: none"> 各事業場の労働安全衛生委員会への対応 健康診断結果の就業判定及び指導 健康相談及び指導 産業衛生及び公衆衛生の普及及び啓発活動 	
	環境・安全推進室	(人事労務課)	<ul style="list-style-type: none"> 安全衛生管理に関する企画、調査及び連絡調整に関すること(設備環境課の所掌に属するものを除く) 環境・安全委員会に関すること 労働安全衛生に係る法にもとづく届出に関すること(設備環境課の所掌に属するものを除く) 職員の保健衛生及び安全保持に関すること 労働災害の補償に関すること 特定化学物質等の管理に関すること その他安全衛生管理に関すること
			(研究コンプライアンス推進室)

環境マネジメント体制における各委員会の所掌概要 (5頁)

(2025年5月1日現在)

委員会等名称	所掌事項概要
環境・安全委員会	<ol style="list-style-type: none"> 環境保全に関する事項 労働安全衛生法その他関係法令にもとづく実験室等の安全に関する事項 健康管理及び衛生管理に関する事項 放射性物質及び原子力等の安全に関する事項 遺伝子組換え実験の安全に関する事項 動物実験に関する事項 省エネルギー・省資源に関する事項 感染症対策に関する事項 研究用微生物を使用する実験の安全に関する事項 その他環境及び安全衛生に関する重要事項
環境マネジメント専門委員会	<ol style="list-style-type: none"> 環境保全に係る施策の企画・立案及び基本方針に関する事項 廃棄物(放射性物質を含む廃棄物を除く。)による大気汚染、水質汚濁、土壌汚染及び悪臭ならびに騒音及び振動の調査及び防止対策に関する事項 大学構成員に対する環境保全教育に関する事項 環境保全センターに関する重要事項 エネルギー使用の合理化、その他エネルギー管理に関する事項 環境報告書の作成に関する事項 その他環境マネジメントに関する事項

環境保全センターの主な業務 (5頁)

(2025年5月1日現在)

センターの目的	主な業務
<p>東北大学の教育研究活動に伴って生ずる有害物質を含む排水、廃油及び廃有機溶剤(放射性物質を含む廃棄物を除く。)を適正に処理し、及びその処理に関する技術開発等を行うとともに、化学原料化において2次公害となる物質の排出を抑制する技術を確認することにより、環境の保全に資することを目的とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 廃液処理(収集運搬含む)、廃液分析 排水分析 沢水分析 PCB分析 土壌調査 PRTR アスベスト調査

2 環境マインドを備えた人材の育成

2-1 環境関連の教育 (20頁)

2024年度学問論演習 環境関連テーマ

環境関連テーマ	受講者数	受講者所属
CO ₂ の性質とその有効利用	6	理1、薬1、工2、農2
遺伝資源の持続的利用と保全	16	理3、工2、農11
地球の定員を考える	14	文1、法1、理4、医2、工3、農3
グリーンテクノロジーのための材料とデバイス (半導体光デバイスおよび磁気デバイス関連の実習・講義)	3	薬1、工2

2024年度工学部創造工学研修 環境関連テーマ

創造工学研修テーマ・内容	受講者数
鉱物から地熱資源の温度を測ってみよう	4
水からつくるペロブスカイト材料とその未来	5
身近な水を調べよう	3
花びらの色素を使った太陽電池を作ろう	2
希少金属を使わない！二酸化チタンで作る次世代透明導電膜	3
燃料電池用セラミックス電解質を作ってみよう！	6
情報・AI・データ科学と建築環境デザイン	2

2024年度環境関連教育科目演習・実習等

実施部局	講義科目		演習・実習等科目	
	開講数	受講者数	科目名	受講者数
法学部	3 (1)	42	環境・コミュニケーション演習	22
法科大学院			実務政策学環境政策演習	3
公共政策大学院				
経済学部・経済学研究科	1	14	演習I、II	9
			環境経済学演習I、II、III、IV	15
			Seminar in Economics a, b	6
理学部・理学研究科	24	630	地圏環境科学実習II	45
			地圏環境科学実習I	54
			環境・地球科学実践演習I	9
			環境・地球科学実践演習II	27
			環境・地球科学実践演習III	18
			環境・地球科学特別実験I	27
農学部・農学研究科	15	1,363	生産フィールド実習	188
			農場実習	96
			復興・IT農学	39
			複合生態フィールド科学専門実習	18
			臨海実習	48
			農村調査実習	10
環境科学研究科	60 (3)	955	環境科学演習	30
			環境科学演習 Seminar on Environmental Studies	11
			先進社会環境学演習	6

2024年度環境関連教育科目演習・実習等（つづき）

実施部局	講義科目		演習・実習等科目	
	開講数	受講者数	科目名	受講者数
工学部・工学研究科	38(2)	1,416	建築・社会環境工学演習	110
			社会環境工学実験	64
			水環境デザイン演習Ⅰ	23
			水環境デザイン演習Ⅱ	16
			水環境デザイン研修A	15
			水環境デザイン研修B	15
			水環境学特別研修	10
			環境資源化学セミナー	10
			水環境学セミナー	15
			環境設備実習	7
国際文化研究科	13	33	国際環境資源政策論特別演習A	2
			国際環境資源政策論特別演習B	1
			国際環境資源政策論特別研究A	2
			国際環境資源政策論特別研究B	1
			国際環境資源政策論総合演習A	1
			国際環境資源政策論総合演習B	1
生命科学研究所	2	205	—	—
多元物質科学研究所	2	168	—	—
全学教育科目	21(9)	2,854	文科系のための自然科学総合実験	60

※ 休講・不開講の授業・講座等は表中の数値に含まないものとする。
 ※ () は今年度新たに開講した科目数（内数）を示す。

2024年度オンライン学習サービス「東北大学MOOC」コンテンツ（環境関連）

開講日	講座題目	講師
2025年1月15日～3月18日	放射線安全社会入門～リスクの知見を暮らしに	工学研究科 新堀 雄一 他
2024年6月5日～2025年3月31日	解明：オーロラの謎	理学研究科 小原 隆博
2024年6月5日～2025年3月31日	東日本大震災の教訓を活かした実践的防災学へのアプローチ	災害科学国際研究所 今村 文彦 他

2-2 国際的教育プログラム（21頁）

大学院ヒューマン・セキュリティ連携国際教育プログラムの2024年度受講者数と取得可能な学位

研究科	2024年度受講者数	取得可能学位
医学系研究科	0 (-)	修士 (医科学)
農学研究科	29 (4)	修士 (農学)、博士 (農学)
環境科学研究科	0 (-)	修士 (環境科学)、修士 (学術)、博士 (環境科学)、博士 (学術)

() は修了者数（内数）を示す。

大学院ヒューマン・セキュリティ連携国際教育プログラムの延受講者数と国籍（2020～2024年度）

年度	延受講者数	国籍
2020	15	中国、インドネシア、ナイジェリア、ベトナム
2021	12	中国、インドネシア、ナイジェリア、台湾、ベトナム
2022	12	中国、コンゴ、インドネシア、マレーシア、モザンビーク、フィリピン、台湾、ベトナム
2023	22	カメルーン、中国、コンゴ、インドネシア、モンゴル、モザンビーク、ネパール、フィリピン、台湾、アメリカ合衆国、タイ、ベトナム
2024	29	カメルーン、中国、コンゴ、インド、インドネシア、モンゴル、モザンビーク、ネパール、フィリピン、スーダン、アメリカ合衆国、タイ、ジンバブエ

II 各論

② 環境マインドを備えた人材の育成 ③ 環境関連研究の紹介

バイオインダストリー人材育成プログラムの延受講者数と国籍（2020～2024年度）

年度	延受講者数	国籍
2020	118（1）	日本、中国、エジプト、グアテマラ、インドネシア、台湾
2021	133（0）	日本、アルジェリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、韓国、スリランカ
2022	155（0）	日本、バングラデシュ、中国、エチオピア、インド、インドネシア、ナイジェリア、アメリカ合衆国、トルコ
2023	134（2）	日本、カナダ、中国、韓国、マレーシア、ナイジェリア、スウェーデン、台湾
2024	147（1）	日本、カナダ、中国、インドネシア、カザフスタン、マレーシア、シンガポール、台湾、ベトナム

（ ）は修了者数（内数）を示す。

グローバルガバナンスと持続可能な開発プログラムの延受講者数と国籍（2020～2024年度）

年度	延受講者数	国籍
2020	15（2）	日本、ブラジル、カメルーン、中国、コロンビア、韓国、マダガスカル、モンゴル、モザンビーク、タイ、トルコ
2021	14（5）	ブラジル、カメルーン、中国、コロンビア、韓国、ペルー、タイ、トルコ
2022	17（3）	ブラジル、カメルーン、中国、インドネシア、韓国、ペルー、アメリカ合衆国、トルコ
2023	21（8）	ブラジル、中国、インドネシア、韓国、アメリカ合衆国、トルコ
2024	15（2）	ブラジル、中国、インドネシア、アメリカ合衆国、トルコ

（ ）は修了者数（内数）を示す。修了時には学位の他にG2SDプログラム修了証も授与される。

国際環境セキュリティリーダー育成プログラムの延受講者数と国籍（2022～2024年度）

年度	延受講者数	国籍
2022	51（11）	アフガニスタン、バングラデシュ、中国、エクアドル、エルサルバドル、インド、インドネシア、イラン、イタリア、マレーシア、モンゴル、ロシア、スリランカ、タイ、フィリピン、アメリカ合衆国、ベトナム
2023	48（11）	アフガニスタン、バングラデシュ、中国、エクアドル、ドイツ、インド、インドネシア、イラン、イタリア、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ナイジェリア、フィリピン、ロシア、スリランカ、アメリカ合衆国、タイ、ベトナム
2024	35（11）	バングラデシュ、中国、エクアドル、ドイツ、インド、インドネシア、イラン、イタリア、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ナイジェリア、フィリピン、ロシア、スリランカ、アメリカ合衆国、タイ、ベトナム

（ ）は修了者数（内数）を示す。2022年度は前身の国際環境リーダー育成プログラム（IELP）の修了者数（内数）を示す。

③ 環境関連研究の紹介

科学研究費助成事業における環境関連研究件数（23頁）

研究種目	2024年度（最終年度）研究成果報告書件数	環境関連研究課題件数（%）※1
基盤研究（S・A・B・C）	404	54（13.4%）
若手研究	171	20（11.7%）
挑戦的研究（開拓・萌芽）	86	16（18.6%）
研究活動スタート支援	53	7（13.2%）
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化等）	33	12（36.4%）
奨励研究	13	4（30.8%）
学術変革領域研究（B）	7	1（14.3%）
合計	767	114（14.9%）

※1 環境関連研究課題件数については、研究課題及び研究成果（概要）の中に、表Ⅱ-12の「関連する研究分野」欄のキーワード等を含んでいるものの件数を合計。

4 環境コミュニケーションの推進

4-2 環境情報の社会との連帯と共有活動 (30頁)

環境に関する各種公開講座の実施状況 (2024年度)

区分	実施部局	講座の名称	回数	延受講者数
みやぎ県民大学	環境科学研究科	気候変動と生活から考える環境	5	55
	金属材料研究所	持続可能な未来社会を創る材料の科学と技術	5	48
学都仙台コンソーシアム (サテライトキャンパス 公開講座)	環境科学研究科	同位体で調べる地球の科学	1	12
公開講座・開放講座	総務企画部広報室	市民のためのサイエンス講座2025 「広くて深い農学のススメ～食、毒、そして牛の生態まで～」 (東北大学と読売新聞の共同プロジェクト)	1	約100
	工学研究科	「夢ナビライブ2024」(主催：株式会社フロムページ)	1	179
	グリーン×デジタル産学共創 大学院	グリーン・データ科学特別講義 「バイオマス資源を活かした持続可能なものづくりによる グリーン社会の実現」	1	9
	農学研究科附属複合生態 フィールド教育研究センター	食と環境のつながりを学ぶ「フィールド環境学」	1	102
	農学研究科附属複合生態 フィールド教育研究センター	留学生とともにフィールドで日本の農業と食、環境を学ぶ 「海外留学生共修」(春)(秋)	2	65
	農学研究科附属複合生態 フィールド教育研究センター	開放講座「Open Farm 2024」	1	19
	農学研究科附属複合生態 フィールド教育研究センター	2024年度PICS オンライン市民講座 「見えないものを見る！」	1	40
	学術資源研究公開センター等	片平キャンパス・樹木ツアー(春・秋)	2	40
	学術資源研究公開センター、 植物園	植物写真ワークショップ(いがりまさし氏)	1	14
	学術資源研究公開センター、 植物園	講演会&映像詩生演奏 「植物から読み解く大地からのメッセージ」	1	31
文学研究科、植物園	紅葉の賀(植物園ガイドツアー 43名含む)	1	292	
出前授業	経済学研究科	模擬講義 「気温上昇の農業への影響、環境経済学の役割」 (宮城県仙台第三高等学校)	1	91
	経済学研究科	模擬講義 「環境問題と環境経済学のかかわり」 (福島県立福島西高等学校)	1	37
	工学研究科	SS探求講座 「バイオマスの特性を活かした持続可能なものづくりとその事 業化検討」(宮城県仙台第一高等学校)	1	10
	工学研究科	理科共同実験講座「サイエンス・コ・ラボ」 持続可能なものづくり～未利用資源を燃料や食品に (仙台育英学園高校)	1	23
	工学研究科	みらい型科学者の卵養成講座 「国内資源の循環を考える～バイオ液体燃料の活用～」	1	115
	国際文化研究科	廃プラスチックと環境問題をテーマとしたSDGs出前授業 (東松島市立矢本西小学校、矢本東小学校、赤井小学校、赤井 南小学校、大曲小学校、大塩小学校、鳴瀬桜華小学校、宮野 森小学校の4年生対象)	8	329
	生命科学研究科	東北大学特別出前講義	43	2,561

延受講者数は、対面形式、Web形式、もしくは両方の合計の人数とする。

東北大学サイエンスキャンパス 体験型科学教室の実施状況（2024年度実施の教室のうち環境をテーマとしたもの）

開催月日	タイトル	概要	対象及び参加者数
5月11日（土）	コンピューター分解教室 ～科学とECOをつなげよう～ (協力：株式会社仙台村田製作所)	クイズを通して3R（リデュース、リユース、リサイクル）について学んだ後に、グループを組んでパソコンを分解し、それぞれの部品をプラスチック、金属、及び基板等に分別した。分別するとどのようなものに生まれ変わるのか、再度資源として利用することの大切さを学んだ。	小学4年生～6年生 32名
6月8日（土）	「NISSAN まるごと体験」 (協力：日産自動車株式会社)	「わくわくエコスクール」パートにおいて、まず、温暖化の原因のひとつとなっているCO ₂ のことに触れ、車を使った生活水準を維持しながら、環境に優しい車を開発していく必要性について学んだ。次に、電気自動車について、手回し発電機で作った電気をコンデンサーに充電してモデルカーを走らせる実験を行った。	小学4年生～6年生 30名
7月27日（土）	スマートフォン分解教室 (協力：KDDI株式会社)	スマートフォンを丁寧に手で分解し、材質や働きごとに仕分けをしながら、構成する部品を確認した。また、実際に不要となったスマートフォンは、すべて手作業で分解・処理され、希少金属・鉄・プラスチックとしての再利用が進められていることを学んだ。	小学5年生～ 中学1年生 15名
9月7日（土）	NSK STEAM プログラム 「電気を生みだす不思議なお絵描き」 (協力：日本精工株式会社)	酸化チタンに色素を付けて「色素増感太陽電池」*1を作る実験を通して最新の太陽電池について学んだ。白いキャンパス（酸化チタン）に3色（シアン、マゼンダ、イエロー）のペンを使って絵を描き、描き終わったキャンパスに電解液を垂らし、LEDが点灯するかで発電したかどうかを確認した。	小学5年生～ 中学3年生 32名
12月7日（土）	DIC 理科実験授業 ～くらしに役立っている化学の力 その機能や役割を実験や観察で調べてみよう～ (協力：DIC株式会社)	くらしや社会を彩り、豊かで快適にしている身近な化学を観察や実験を通して学んだ。内側にプラスチック薄膜が貼られた食品包装の紙器は紙へのリサイクルが妨げられるが、紙器内面コーティング剤**2を使用すると、紙としてのリサイクルが可能になることを実験を通じて確かめた。	小学5年生～ 中学1年生 40名
2月15日（土）	サンケン子ども工作教室 LED「ペットボトル」を作る (協力：サンケン電気株式会社)	身近にできる省エネとして、消費電力が少なくて済むLEDの利用について学習した後、オリジナルの「ペットボトル」を製作した。LEDの光で浮き出すメッセージカードを作成し、LEDを刺した基板（円形のソーラーパネルと制御回路、単三型の充電バッテリーがセットになったもの）とともにランタン内部に配し、最後にペットボトル本体の上下を合わせて完成させた。	小学4年生～6年生 24名

※1 特定の色の光を吸収する性質を持った「色素」という材料を使い、光触媒（酸化チタン）の、光を電気に変える性質を高めた装置

※2 DIC株式会社「ハイドレクト」。クラフト用紙に均一に塗布し乾かすと、その表面は水や油をはじき染み込ませない。使用済みのものをリサイクルする際は水酸化ナトリウム液で溶解するため、紙にも再生できる。



NSK STEAM プログラム「電気を生みだす不思議なお絵描き」の様子

せんだい環境学習館「たまきさんサロン」^{※1} 本学教員によるサロン講座の開講状況（2024年度）

開催月日	講座題目	講師
1 6月15日（土）	レインガーデン（雨庭）を探る！	施設部 内山 隆弘
2 11月16日（土）	オリジナルマスタード作りを通して地産地消を考えよう	農学研究科 斎藤 緑
3 1月25日（土）	生ごみからエネルギーを作ってみよう！—バイオガス実験を体験しよう！—	農学研究科 多田 千佳
4 3月15日（土）	鉱物博士になろう！—地球が生み出す不思議な世界—	環境科学研究科 大庭 雅寛

※1 東北大学環境科学研究科本館に併設された仙台市による環境学習施設。大学の施設に自治体のオフィスが入り、大学と自治体との連携のシンボルとなっている。

オープンキャンパス（対面方式）で紹介した環境関連テーマ（2024年度）

実施部局	開催形式	講義・授業テーマ
環境科学研究科	研究内容展示等	<p>研究室ごとに種々のテーマで研究内容を展示したほか、公開講座も行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代への持続可能なライフスタイルのための機能性非金属軽元素材料の開発（佐藤研） ・環境や生命に調和する材料デザインを求めて（上高原研） ・地球環境修復および資源回収に寄与するバイオテクノロジー（井上・簡研） ・流体が駆動する地球をのぞいてみよう～資源・エネルギー、炭素固定、地震～（岡本・宇野研） ・地殻環境・エネルギー技術の新たな扉を開く（坂口研） ・知能建機による地盤・採石センシングシステムの創出（地球開発環境学分野） ・資源とCO₂の循環をより効率的に。同時に環境浄化も！（飯塚研） ・固体内をイオンが動く！～地球にやさしいセラミックス燃料電池～（川田研） ・地圏環境科学の深化と持続可能なエネルギー資源開発（渡邊研） ・現代の錬金術～簡単・簡便に、常温・常圧溶液中で高性能ナノ材料を創製する～（高橋研） ・農業用栄養塩類と金属資源のライフサイクル・産業連関・マテリアルフロー分析～（松八重研） ・見て知る計算科学を活用した“粉”のプロセス作りの現場（加納研） ・Geo（地球）+Mechanics（力学）による地球温暖化ガスを削減するためのエネルギーと新技術の開発（伊藤研） ・人類の未来を切り拓く、エネルギー材料・低環境負荷材料を創ります！（小俣研） ・機能材料の創製と熱物性計測法の開発（福山・大塚研） ・資源・物質循環型社会に貢献する機能性材料の創製と応用（亀田研） ・資源循環と技術・社会システム～リチウムイオン電池と太陽光パネルのリサイクル～（白鳥研） ・GIS体験「それ、地図にしたらわかるかもね」（中谷研） ・鉱石から金属へ！カーボンニュートラル化に向けた挑戦（村上研） ・赤外分光観測で捉える大気中の微量成分の変動（村田研） ・カーボンのチカラでカーボンニュートラルへ、捨てられる下水から価値を生み出す（水資源システム学分野） ・最新化学技術で未来社会をデザインしよう（福島研） ・人類進化に関連した模型展示および三次元計測等の装置体験（田村研） ・美食地政学にもとづくグリーンジョブマーケットの醸成共創拠点（環境研究推薦センター）
農学研究科	模擬講義	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトは野生生物と共存できますか？駆除への選好から環境経済学を読み解こう ・人と動物がどう共生していけるのか、農業等の産業と自然環境がどう共存するのか、お互いが折り合える社会を、環境評価という観点からひもとき考えることが、環境問題の改善や環境保全へとつながる

③行政支援～本学関係者が参画した環境関連の主な行政機関委員会一覧（2024年度）～

委員会名	主催企画団体	役割
国土審議会	国土交通省	専門委員
関東東北地方鉱山保安協議会	経済産業省	委員
産業構造審議会 鉱業小委員会	経済産業省	委員
中央環境審議会総合政策部会風力発電に係る環境影響評価制度の在り方に関する小委員会	環境省	委員
令和6年度災害廃棄物対策推進検討会	環境省	委員
災害廃棄物処理計画策定事業費補助金審査委員会	環境省	委員
小型家電リサイクル小委員会	環境省	専門委員
宇宙航空科学技術推進委託費審査評価会	文部科学省	委員
科学研究費助成事業における評価に関する委員会	文部科学省	評価者
北上川水系河川整備学識者懇談会	国土交通省 東北地方整備局	委員
鳴瀬川水系河川整備学識者懇談会	国土交通省 東北地方整備局	委員

II 各論

④ 環境コミュニケーションの推進

I 総論

II 各論 ④ 環境コミュニケーションの推進

委員会名	主催企画団体	役割
阿武隈川水系河川整備委員会	国土交通省 東北地方整備局	委員
東北圏広域地方計画策定に関する有識者懇談会	国土交通省 東北地方整備局	委員
東北地方整備局 新技術活用評価会議	国土交通省 東北地方整備局	委員
東北地方整備局 総合評価委員会及び専門部会	国土交通省 東北地方整備局	委員
東北地方整備局 事業評価監視委員会	国土交通省 東北地方整備局	委員
東北みらいDX・i-Construction連絡調整会議	国土交通省 東北地方整備局	会員
チョウセンキバナアツモリソウ保護増殖事業検討委員会	環境省 東北地方環境事務所	委員
災害廃棄物対策東北ブロック協議会	環境省 東北地方環境事務所	構成員
宮城県環境審議会	宮城県	委員
宮城県環境影響評価技術審査会	宮城県	委員
宮城県自然環境保全審議会	宮城県	委員
宮城県再生可能エネルギー等・省エネルギー促進審議会	宮城県	委員
宮城県再生可能エネルギー税制研究会	宮城県	構成員
宮城県開発審査会	宮城県	委員
宮城県廃棄物処理施設専門委員会	宮城県	委員
宮城県文化財保護審議会	宮城県	委員
宮城県沿岸海岸保全基本計画の変更に関する技術検討会	宮城県	委員
みやぎ二酸化炭素排出削減支援事業の申請案件審査	宮城県	外部評価者
宮城県社会教育委員の会議	宮城県	委員
第13次・第14次宮城県生涯学習審議会	宮城県	委員
宮城県保健環境センター評価委員会	宮城県	委員
女川原子力発電所環境保全監視協議会	宮城県	委員
女川原子力発電所環境調査測定技術会	宮城県	委員
村田町竹の内地区産業廃棄物最終処分場生活環境影響調査評価委員会	宮城県	委員
伊豆沼・内沼自然再生協議会	宮城県	会長・委員
青森県環境審議会	青森県	委員
青森県環境影響評価審査会	青森県	委員
岩手県海岸保全基本計画検討協議会	岩手県	構成員
秋田県環境審議会専門委員会	秋田県	委員
富山県環境審議会土壌専門部会	富山県	専門員
仙台市環境審議会	仙台市	委員
仙台市環境影響評価審査会	仙台市	委員
仙台市景観総合審議会	仙台市	委員
杜の都の環境をつくる審議会	仙台市	委員
仙台城跡調査・整備委員会	仙台市	委員
仙台市廃棄物対策審議会	仙台市	委員
仙台市廃棄物処理施設設置等調整委員会	仙台市	委員
仙台市下水道マスタープラン検討委員会	仙台市	委員
仙台市大規模小売店舗立地法専門委員会	仙台市	委員
蒲生北部地区市有地利活用事業者選定委員会	仙台市	委員
今泉工場建替検討委員会	仙台市	委員
栗原市環境審議会	栗原市	会長
大崎市ラムサール条約湿地保全活用委員会	大崎市	委員
バイオマス産業都市構想検討委員会	大崎市	委員
塩竈市文化財保護審議会	塩竈市	委員

委員会名	主催企画団体	役割
岩沼市環境審議会	岩沼市	会長
亘理町環境審議会	亘理町	会長
四日市コンビナートカーボンニュートラル化推進委員会	四日市市	委員
仙台市公園緑地協会理事会	公益財団法人 仙台市公園緑地協会	理事
放射性物質異常放出事後対応調査検討委員会	公益財団法人 環境科学技術研究所	委員

環境に関する各種シンポジウム及び講演会の実施状況（2024年度）

実施部局・関係団体	講演会・シンポジウムタイトル/テーマ	概要	来訪者数
工学研究科	第13回 電力エネルギー未来技術シンポジウム	学術的研究の場と電力産業との関わりの接点として、「カーボンニュートラル燃料への転換」をテーマとし、4つの講演を含むシンポジウムを開催した。	204
国際文化研究科	大規模地震の発生と減災	MS&AD インターリスク総研株式会社 顧問の関田 康雄氏をお招きし、地震の観測や解析から得られた情報をどのように防災と減災に活かすことができるかについてご講演いただいた。	66
国際文化研究科	Current Issues and Potential for Sustainable Energy Supply in Mongolia	モンゴル国立大学のBAYASGALAN DUGARJAV准教授をお招きして、モンゴルにおける持続可能エネルギー供給とその課題についてご講演いただいた。また国際文化研究科の劉曉明助教によるモンゴル遊牧民調査結果についても発信を行った。	20
環境科学研究科	東北大学エネルギーシンポジウム「カーボンニュートラルが描く東北の未来 再生可能エネルギーが創る東北の価値」	カーボンニュートラル達成に向けた産官学連携の強化・促進と東北が高いポテンシャルを有する再エネの地産地活による新たな経済基盤や産業創出の機運を高めることを目的としたシンポジウム。12月17日開催。	43
金属材料研究所	先端エネルギー材料理工共創研究センター(E-IMR) 2024年度ワークショップ	脱炭素社会の実現、2050カーボンニュートラルの達成に向けたエネルギー材料の先進的な研究、および「太陽エネルギーと3つの『蓄』の最大化に貢献するエネルギー材料研究」プロジェクトとに関する各種の講演・研究発表を行った。	50
未来科学技術共同研究センター	第27回未来科学オープンセミナー「街のヘルスケア」を実現する次世代環境モニタリング技術の開発	現代社会では、都市活動を支える社会インフラ（上下水道・道路・橋・トンネル等）の健全度を常にモニタリングし、劣化を早期に検知して具体的な対策を施す「街のヘルスケア」とも呼ぶべきシステムを実装することが重要である。本セミナーでは、「街のヘルスケア」の実現に必要な「次世代環境モニタリング技術」について紹介した。現地参加の方には講演後に展示の説明もあった。	70
国際法政策センター	東北大学国際法政策センター主催セミナー「プラスチック汚染を終わらせる」ために一科学技術および国際法の観点から	東北大学国際法政策センターでは、国際法と自然科学の観点から、プラスチックごみが引き起こす問題やそれに対する国際社会における取組等について分野横断的に検討している。本セミナーでは、「プラスチックリサイクルの課題と可能性」、「プラスチック汚染防止条約締結に向けて」といった内容の講演とともに、質疑応答やパネルディスカッションを行った。	56
ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点	ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点キックオフシンポジウム	2024年4月よりプロジェクトが開始した、東北大学「ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点」（国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の共創の場形成支援プログラム本格型に採択）のキックオフイベント。関連省庁が一同に会して講演を行うほか、研究活動のポスター発表も実施した。	390

来訪者数は、対面形式、Web形式、もしくは両方の合計の人数とする。